令和7年2月栃木市教育委員会定例会会議録

令和7年2月栃木市教育委員会定例会を、令和7年2月25日栃木市役所に招集した。

- 1 本委員会の出席者は、次のとおり
青木 千津子教育長 後藤 正人職務代理 福島 鉄典委員 西脇 はるみ委員
大塚 裕子委員 舘野 知美委員 林 慶仁委員

- 2 本委員会の欠席委員は、なし。

- 3 本委員会に出席を求められた職員は、次のとおり
教 育 次 長 佐 藤 義 美
教 育 総 務 課 長 渡 辺 智 恵 子
保 健 給 食 課 長 飯 島 彰
生 涯 学 習 課 長 小 林 博 己

- 4 本委員会の署名委員は、次のとおり
福島 鉄典委員

- 5 本委員会の書記は、次のとおり
教育総務課 石川 佳代

- 6 本委員会の会議案件は、次のとおり

日程第1 会議録の承認

日程第2 教育長報告

日程第3 議事

- 議案第3号 栃木市就学援助費交付規則の一部を改正する規則の制定について
協議第1号 栃木市学校給食における食物アレルギー等対応食補助金交付要綱の一部を
改正する要綱の制定について
議案第4号 栃木市教育委員会行政組織等規則の一部を改正する規則の制定について

日程第4 その他

《会 議》

教 育 長 ー 午前9時30分定例会の開会を宣し、出席委員、出席を求められた職員、署名委員、書記及び会議案件を報告する。 ー

教 育 長 日程第1 会議録の承認についてでございます。1月定例教育委員会の会議録につきましては、あらかじめ委員の皆様へに配付したとおりでございます。ご質問ご意見等はございますでしょうか。

ー なしの声 ー

教 育 長 それでは、会議録への署名を後藤委員にお願いいたします。

教 育 長 次に、日程第2 教育長報告でございます。

ー 2月栃木市定例校長会の資料に基づき説明 ー

1 はじめに

2 管理職期末面談を通して確認できた成果より

○学力の向上への取組

- ・ 教室訪問後取組の良さを中心に9分割画像資料で授業者へフィードバック、また、校内巡視を日に5回実施し、児童の良さを昼の時間に放送
- ・ 学力向上推進校視察、小中一貫における授業研究の充実、学力向上推進リーダーの活用等により、各種テストにおける3年間のデータが右肩上がり
- ・ 校長の観点を設けての授業参観と授業実践紹介に刺激を受け、教員間の自発的な「ちょこ参観」が誕生

○不登校への対応

- ・ 校内教育支援センターを3学期から試行的に開設、次年度本格実施へ→運営マニュアルの策定、地域人材をサポートへ

○働き方改革への取組

- ・ 「児童生徒と向き合う時間の確保」及び「学習指導・児童生徒指導の充実」に向けた保護者や地域への発信

○その他

- ・ 学校だよりや学校ホームページを学校と読書の双方向性化
- ・ 保護者からの突然のクレーム対応に係るマニュアルの策定と共通理解
- ・ 他校の優れた取組を自校に積極的に取り入れる姿勢

3 今季参加した講演会等から

◇2/1(土)とちぎ未来アシストネット 第9回ボランティア交流会

◇2/7(金)グローバル教育講演会

演題：「鳥の目、虫の目、魚の目 ～世の中の見方と行動のヒント～」

講師：渡邊 賢一氏 栃木市政策フェロー

内閣府クールジャパン官民連携プラットフォームディレクター 等

4 今年度を振り返って

○成果から1点

数多くの授業を参観し、子どもたちがテーマにもとづきしっかりと自分の考えをもち、友だち同士で意見交換をしながら自らの考えを再構築する姿を沢山目の当たりにした。今、子どもたちに身に付けさせたい力の育成に向けて授業改善に取り組んでいる先生方に感謝したい。

○課題から1点

いじめに起因する児童・生徒指導の問題が、いつの間にか子ども不在となり、保護者同士の確執や保護者からの過度な要求が学校に寄せられ、事態が深刻化・長期化するケースが少なからずあった。いじめ等の問題は何と言っても初

期対応が肝要。今一度校内で対応の在り方を研修し、共通理解を図りたい。
また、子どもの人権が守られない教師の言動については厳に慎むよう再度徹底を図りたい。

※「人事異動」を、個々の成長と組織活性化への契機に！

5 おわりに

一年間、大変お世話になりました。特に、本年度末に退職あるいは役職定年を迎えられる校長先生方、永年に渡るご尽力に心より感謝申し上げます。

教 育 長
福 島 委 員

私からの報告は以上でございます。ご質問等ございましたらお願いします。
栃木中央小の例でありました校内版支援センターは、栃木市の各学校に義務付けられているのでしょうか。

教 育 長

義務ではないのですが、不登校のお子さんを救うというのが大きなテーマです。栃木市では教育支援センターあじさいやはばたき等、校外にある教育支援センターが5カ所あります。そこに通っているお子さんもいるのですが、教室には行けないが、学校には何とか来られる、というお子さんがいますので、そのお子さんを何とか救いたいということで始まったものです。これまでは相談室登校や保健室登校等、適宜、各学校が空いている部屋を活用して対応していました。校内版適応指導教室「とまり木教室」として栃木西中が始めたのが最初です。教育委員会主導ではなく学校から生まれました。つまり、校外の支援センターに行く代わりに、教室には行けない子どもたちのために教室を作ったのです。それを参考にして、私が大平南中学校で「ハーモニー教室」を作りました。そうやって徐々に増えていって、それがとても功を奏したので、校内版の教育支援センターを可能な限り作っていただきたいと、教育長に就任してから校長先生方に毎年、毎年お願いを続け、徐々に増えていきました。現在の状況ですが、中学校は13校中11校、小学校は29校中16校にできました。中学校は学年に副担任が1、2名いる場合があるのですが、小学校は中学校と違って副担任がいないので、支援員1人にだけお願いするわけにもいかず、ボランティアの方に入ってくださいと小学校が増えたりと、色々工夫しながら、現在29校中16校が設置できたという状況です。

福 島 委 員

校外の教育支援センターと誤解していました。校内にある教育支援センターということですね。

教 育 長

元々栃木市の教育支援センターとして、あじさい、はばたき、すずかぜ、コスモス、わたらせがあるのですが、それらの校内版ということですね。

福 島 委 員
教 育 長

校内版の教育支援センターは、栃木市全部の小中学校にあるのではないのですね。全部ではなく、できる範囲でという事です。校長先生方の頑張りもあって、ようやくここまで増えてきました。

福 島 委 員

資料の“保護者等からの突然のクレーム対応について”は、先生達にとってとても大切な事で、以前後藤委員が教育委員会で扱った、保護者対応の仕方についての資料を見た時に、働いている先生方にとってこのような資料はとても大きな力になると思いました。それに加えて経験のある校長先生が先頭に立って対応の仕方についてアドバイスをくれると、若い先生方にとって非常に良いと思うので、ぜひクレーム対応の資料を活用していただければと思います。

教 育 長

クレーム対応は何と言っても初期対応です。初期対応でボタンを掛け違ってしまうと、先生も保護者も子どもの為になにかしたいというそれぞれ思いが食い違って、何か月も時には年を越えて学校と保護者が折り合わないという事態になってしまうケースが少なからずあります。初期対応を間違えないという事が何よりも大切かと思ひまして、例を上げさせていただきました。他にいかがでしょうか。モンスターペアレントの対応についての冊子を以前配布した事を思い出しました。保護者対応に疲弊して、せつかく小学校の先生になっても5年経たずに辞め

てしまう方もいます。そういった事から授業の一環として様々な場면을想定して、自分の思い出したくないような経験も入れて、それを冊子にして、毎年改定しています。具体的にどういう場面で、どうしたら良いかという所まで掘り下げていかないと、上辺だけの言葉だけでは先生方がきちんと指導できないという事があります。2月7日に文科省主催の全国市町村教育委員会研究協議会がありました。また、2月10日に県の総合教育センターで協議会があり、両方に参加しました。本年度の振り返りと来年度の構想について話がありました。文科省主催の会合は、全国の方々がたくさん来て様々な話題がありました。大体がいじめの問題や不登校の問題、学力の問題等が話題になりました。青森県と沖縄県の先生の発言がきっかけになった話題がありまして、今子ども達は、子ども同士の関係や子どもと先生との関係に非常に困惑しているそうです。それを解決するためには学級経営が非常に大事だという事だったのですが、文科省は学級経営という言葉だけで済ませてしまっているの、国で学級経営についてもっと明確にして欲しいという事でした。青森県の先生が、学級経営に学級目標が集約されるべきで、どのような学級を作りたいか子ども達と一緒に考えて、どのようなクラスにしたら良いか、そのためには日々どのような活動をしたら子ども達が考えている学級目標を実現できるかという事を、4月5月にもっと時間をかける事で1年間の勝負になるのではないかとこの事をおっしゃっていました。教育長報告の資料にあるように、栃木市は学級経営について非常に具体的に掘り下げておりました。子ども達は、人間関係や先生との関係、そういった事で学校嫌いになってしまうのではと思います。一方で、文科省は“生きる力”“生き続ける力”という事を強調しています。真逆ではないかという意見がたくさん出ました。どの地域も抱えている問題はそれほど変わらないと感じました。栃木市においては、アシストネットの関心が高かったです。子ども達が軸になるような学級づくりが大切だと思います。子どもの出番と居場所が明確になれば、学校の友達に会いに来たり、学びに来るのではないかと思います。その道のりは厳しいかもしれませんが、学級経営という言葉だけで済ませるのではなくて、もっと掘り下げた形で行うべきではないかという話がありました。栃木市内の小中学校の訪問に行くと、それぞれの学校の校長先生から学校経営という冊子をいただきます。学校づくりについての位置づけはわかりやすいのですが、学級づくりについては明確になっていないので、それぞれの学級の目標が出てくるようなパンフレットができると良いのかと思います。4月頃に作成する事を考えると時間的に難しいと思いますが、私が学校訪問をする時に真っ先に見るのが学級目標と掲示物です。授業は少し見ただけでは学級についてわかる状況ではないので、そういったものを見ながら学級での子ども達の関係性が伝わってくるような気がします。文科省の方が、これからは学級目標まで掘り下げて考えていきたいとおっしゃっていましたので、ありがたいと思いました。

教 育 長
館 野 委 員

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

アシストネットについて関心が高かったという事でしたが、今までは講話の後に色々な地域の方と交流する所で終わっていたのですが、今年はそこから自分達の地域に戻って、振り返りをしながらもう一度仲間と話し合うという時間があり、より深められたのではないかと思います。

教 育 長

アシストネットボランティア交流会は前半が事例発表で、後半が交流会なのですが、交流会も二段階に分かれていて、交流会の前半が同じ地域の方々との意見交換、後半は各地域の方々が混じり合って意見交換していました。その様子を見て回っていたのですが、「あそこの地域でこういった事を行っているからうちでも取り入れましょう。」等建設的な意見も出て、これまでで一番盛り上がった交流会でした。とても良かったです。未来を感じました。

福島委員
館野委員
教育長

今までは受け身でしたよね。
抱えている課題はどこも同じで、それをどうしようかと意見が出尽くしていたのですが、今回はとても良かったです。

抱えている課題の最たるものが、ボランティアの方々の高齢化と固定化なので、最近では保護者の方々にもボランティアとして入ってもおうといった学校が増えてきています。その事について、どうしたら保護者の方々をボランティアに引き込めるか話し合っていました。

福島委員
館野委員

一度そういったボランティアに参加すると、次も参加しやすいと思います。点検評価委員会でもボランティアについての話が出ていたと思うのですが、やはり学校とPTAと地域のボランティアの方々と連携できれば良いという事が話題に上がっていました。それと、「キラッと輝く栃木市のお宝発表会」で小野寺小学校のふるさと学習の発表がありました。子ども達が地域の中で色々なお宝を地域の方々と交流をしながら、自分達の住んでいる所にどのような事があるのだろう、どのような事を行っているのだろうという「キラッと輝く事を探す」という授業があって、それを子ども達が地域ごとにパワーポイントにまとめて発表するという機会があり、とても素晴らしい経験だと思いました。地域の方々との繋がりという所もありますが、ふるさと学習の中にも調べた事をまとめてプレゼンする力を発揮する機会があることが、これから大人になっていく上で貴重だと思いました。

教育長

岩舟地域でしたので、何度も大慈寺が出てきました。「僕たちの宝、大慈寺！」といった紹介もありました。

館野委員

子ども達は自分の住んでいる地域に色々な事やモノがある事を、知らなかったと言っていました。自分達も積極的に関わっていきたくと、子ども達の口からそういう言葉が出る事が、地域愛や大人になって他の地域に行ってもふるさとを思う気持ちや心の育みに繋がるのかと思いました。教育長がおっしゃっていたように、そういった事が世界平和に繋がるという言葉が子ども達の心に響いたと思いますし、励みになったと思います。子ども達は本当に素敵なコメントをいただいたと思います。

教育長
館野委員
教育長

どのグループも子ども達がとても素晴らしかったです。
堂々として発表していましたね。
そうですね。各地域に名物や名産、名所がたくさんありますが、本当のお宝は人だと実感しました。「真のお宝は人に有り」と思いました。

館野委員
教育長
大塚委員

応援がとても暖かく感じました。
ありがとうございます。他にいかがでしょうか。
校内版教育支援センターが栃木市内全ての小中学校にあると、保護者の方の心も軽くなるだろうし、子ども達も学校に行ける回数も増えて、教室に行く事ができるかもしれないので、校内版教育支援センターがあると良いと思いました。また、昨年保護者クレームの対応がとても多かったという事ですが、子どもより保護者の方の気持ちが大きくなってしまふ事もあるので、対応が難しいと感じました。

教育長

学校対保護者となった時に、最初の時点でボタンを掛け違ってしまうと話が進まない時は、教育委員会が間に入って色々アドバイスを上手くしているケースもありますので、そういった時はご相談ください。

後藤委員

保護者対応は大きな問題にならないうちに対応することが大切です。初期対応で食い違いがあると大きな問題になって学校不信に繋がり、学校を通さず教育委員会や文科省にまで問題がいつてしまうと思います。

教育長

終わったと思った問題が、目配り気配りを怠るとまた問題となる場合があるので、定期的に丁寧に保護者の方に対応する事も大切だと思います。何より初期対応が大切だと思います。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

— 質問なし —

教 育 長 次に、日程第3議事に入ります。議案第3号栃木市就学援助費交付規則の一部を改正する規則の制定について、を議題といたします。それでは、教育総務課長より説明をお願いします。

教育総務課長 [説明要旨]
就学援助の援助費目に食物アレルギー及び疾患への対応食費を加えるに当たり、所要の改正を行う必要が生じたため、栃木市就学援助費交付規則の一部を改正する規則を制定することについて、議決を求める旨説明。

教 育 長 ただ今の説明につきまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。

— 質問なし —

教 育 長 それでは、議案第3号について、原案のとおり決定することとしてよろしいでしょうか。

委 員 — 異議なしの声 —

教 育 長 異議なきものと認め、議案第3号について、可決いたします。続きまして、協議第1号栃木市学校給食における食物アレルギー等対応食補助金交付要綱の一部を改正する要綱の制定についてを議題といたします。保健給食課長より説明をお願いします。

保健給食課長 [説明要旨]
栃木市学校給食における食物アレルギー等対応食補助金の交付の対象者を改めるに当たり、所要の改正を行う必要が生じたため、栃木市学校給食における食物アレルギー等対応食補助金交付要綱の一部を改正することについて、協議を求める旨説明。

教 育 長 ただ今の説明につきまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。

林 委 員 イスラム教の方等、宗教上の理由で給食を食べない子どもの給食費はどのようにしているのでしょうか。

保健給食課長 前もって給食を食べないというのであれば、給食費は徴収していません。

林 委 員 そういった方は何人いますか。

保健給食課長 宗教上等の理由で給食を食べないという方は、令和6年5月1日時点で26名です。

教 育 長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

— 質問なし —

教 育 長 それでは、協議第1号について、原案にご異議ございませんか。

委 員 — 異議なしの声 —

教 育 長 異議なきものと認め、協議第1号について、異議なきものと認めます。続きまして、議案第4号栃木市教育委員会行政組織等規則の一部を改正する規則の制定についてを議題といたします。生涯学習課長より説明をお願いいたします。

生涯学習課長 [説明要旨]
組織の見直しを行うとともに、効率的に業務を遂行するため、所要の改正を行う必要が生じたため、栃木市教育委員会行政組織等規則の一部を改正することについて、議決を求める旨説明。

教 育 長 ただ今の説明につきまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。

館 野 委 員 係が変わる事について、家庭教育に関わっている方々から意見はありますか。

教 育 長 係が変わる事での、メリットやデメリットを含めた意見等はありませんかという事ですが、生涯学習課長いかがでしょうか。

生涯学習課長 特に意見等はありませんでした。今の職員体制のまま、係の業務の一部が移動します。青少年係には青少年に関する警察からの情報や、児童相談所からの情報が入ってきます。今まで家庭教育の業務は、図書館等を担当する生涯学習係と同じ係にありましたので、同世代の情報を確認するのであればより情報交換がしやすい

いように、青少年係に移動する形になりました。

教 育 長 より事業を展開しやすいように移動したという事でしょうか。

生涯学習課長 はい。同じような情報を扱う事になりますので、より情報を密にして子ども達に適切な対応を行えるような状況にしていきます。家庭教育は生涯学習でも特に力を入れていきたい部分ですので、展開がしやすいようにという事です。

教 育 長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

— 質問なし —

教 育 長 それでは、議案第4号について、原案にご異議ございませんか。

教 委 員 — 異議なしの声 —

教 育 長 異議なきものと認め、議案第4号について、異議なきものと認めます。次に、日程第4その他に入ります。事務局から何かありますか。

事 務 局 — 令和7年度定例教育委員会の日程について説明 —

教 育 長 ただ今事務局より説明がありましたが、ご質問等ございましたらお願いします。

— なし —

教 育 長 ありがとうございます。以上で、本日の案件はすべて終了いたしました。委員の皆様から何かございますか。

後 藤 委 員 栃木美術館の清水登之の公開講座に参加して、非常に感動しました。館長の見識の深さに、改めて栃木市の魅力に惚れ込んでしまいました。講座は栃木市市民交流センターで行われたのですが、もう一度作品を見に行きたくなり美術館に行ったら、公開講座にいたほとんどの方が作品を見に来ていました。やはり話を聞いた後に作品を見ると、また違った意味で清水登之の家庭に対する思いや、地域に対する思いが非常に伝わってきました。素晴らしい作品と話を聞いて感動しました。

教 育 長 館長は、清水登之は専門中の専門ですので、是非何度も足を運んでいただきたいと思います。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

— なし —

教 育 長 これをもちまして本日の定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございました。

—— 午前10時44分委員会の閉会を宣言した。 ——

令和7年2月25日

教 育 長

署名委員